



令和4年10月5日

岩倉市長 久保田桂朗様

岩倉市行政評価委員会
委員長 千頭 聡

岩倉市行政改革行動計画に基づく令和3年度評価結果報告
について（提出）

表題のことについて、別紙のとおり評価結果をまとめたので提出します。

I はじめに

岩倉市行政評価委員会において、岩倉市行政改革行動計画に基づく令和3年度の評価について、令和4年7月14日、同月21日の2日間にわたり審議を行った。その評価を次のとおり取りまとめたので報告する。

II 総括

岩倉市行政改革行動計画は、第5次岩倉市総合計画について中間見直しを行う令和7年度を目標年度として計画が策定されており、令和3年度の実績について市から自己評価等が示され、本委員会において、この評価等により行財政改革の取組の進捗について審議した。その結果は、下表のとおりである。

評価区分	項目数 (割合)
A：取組項目がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる。	3項目 (15.8%)
B：取組項目がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる。	8項目 (42.1%)
C：順調とまでは言えず、実施内容に基づく取組に改善・努力が必要	6項目 (31.6%)
D：取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要	2項目 (10.5%)
E：取組ができておらず、実施内容自体の見直しの検討も必要	0項目 (0.0%)
計	19項目 (100.0%)

※少数点第2位を四捨五入。

これらの評価は、本委員会において市の自己評価、担当課の説明に基づき実施したものである。本委員会の評価は、市の評価とおおむね一致したものであった。評価結果については、成果指標や効果額の設定が高い目標と思われる取組項目があったり、行動計画策定後の初年度の取組でもあり、C評価及びD評価が全体の約4割を占めている。このことから、目標達成のための取組の改善や努力を期待する。

全体としては、市が自ら考え、改革・改善を進め、おおむね着実に取り組まれており、行財政改革を進めるための基本となるPlan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のPDCAサイクルを意識して業務を遂行していると評価できる。

なお、各取組項目については、岩倉市行政改革行動計画実績評価シートに本委員会の評価及び意見を付したため、各担当課においては、記載した内容を常に意識しながら、引き続き行財政改革に取り組んでほしい。